
1 人体の構造と機能及び疾病

問題 1

☐☐☐

標準的な身体の成長と発達に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生後2か月までに、首がすわる。
- 2 生後3か月までに、座位保持ができる。
- 3 生後6か月33までに、乳歯が生えそろう。
- 4 生後6か月までに、大泉門は閉鎖する。
- 5 生後18か月までに、一人で歩くことができる。

問題 2

☐☐☐

人体の各器官に関する次の記述のうち、解剖学的に正常なものを1つ選びなさい。

- 1 頸椎は12個の骨で構成される。
 - 2 頸動脈は体表から触知できる。
 - 3 大腸は空腸と回腸に分けられる。
 - 4 右肺は2つの肺葉からなる。
 - 5 胃は横隔膜の上にある。
-

-
- 正解 5
- 1 × 首がすわるのは生後3～5か月である。一般に、生後5か月を過ぎると、身体を傾けたり、縦抱きをしたりしても自分で首を支えていられるようになると思われる。
 - 2 × 座位が保持できるようになるのは、生後6～7か月語である。選択肢の「生後3か月」は、首がすわるようになる時期である。
 - 3 × 乳歯は生後7か月ごろから下門歯、上門歯の順で生え始め、2歳半～3歳ごろに乳歯20本が生え揃う。選択肢の「生後6か月」は最初の乳歯が生えるころである。
 - 4 × 大泉門は生後18か月（1歳半）頃に自然に閉鎖する。新生児は頭蓋骨の縫合が未完成で、小泉門（頭頂骨と後頭骨の間）は平均6か月頃、大泉門（前頭骨と頭頂骨の間）は1歳半頃までに閉じる。
 - 5 ○ 一人で歩くことができるようになる標準の年月は、生後12～18か月（1歳6か月）頃である。
-

- 正解 2
- 1 × 頸椎は、脊柱の一部を構成する部分で、12個ではなく、7個である。脊柱は、頸椎7個、胸椎12個、腰椎5個、仙骨1個、鼻骨1個から構成されている。
 - 2 ○ 頸動脈は体表から触知できる。このほか、浅側頭動脈（こめかみ）、撓骨動脈、上腕動脈、大腿動脈、膝窩動脈、後脛骨動脈、足背動脈においても体表から脈拍を触知することができる。
 - 3 × 大腸は盲腸、結腸、直腸に分けられる。空腸と回腸は小腸を構成する部分で、十二指腸と連結している。
 - 4 × 右肺は上葉・中葉・下葉の3葉である。2つの肺葉からなるのは左肺で、左は上葉と下葉の2葉に分かれている。心臓が左側にあることから、右肺の容積がやや大きい。
 - 5 × 胃は横隔膜の下に位置する。胸部・腹部の内臓の位置関係は、上から肺、横隔膜、肝臓、胃の順であり、胃は肝臓と胆嚢とほぼ同位置、大腸・小腸の上にある。
-